

今日もあなたのそばに。明日もあなたのために。

デュポン通信

2014.9
Vol.37

安定した収穫のために...

プレバソン®フロアブル5の灌注処理は強い味方です。

(農林水産省登録:第22464号)

今年もキャベツやはくさいなど、秋冬作野菜の作付け準備が始まります。苗に処理する灌注は、予防的に害虫の食害を防ぎ、作物の健全な生育に貢献します。そこで今回は、この時期の灌注処理で役立つ3つのポイントを紹介します。

ポイント その① 定植3～5日前に灌注する。

高温と乾燥が続く時期は、薬剤の成分が作物内で吸収移行しにくくなります。このような天候状態で苗を定植する場合は、プレバソン®フロアブル5を定植3～5日前に苗(セルトレイ)に灌注処理することをおすすめします。セルトレイの中で有効成分をじっくり吸い上げるため、本圃への定植後も安定した効果を発揮しやすくなるのです。どうぞお試しください。

ポイント その② 定植後に圃場を良く観察する。

暑い日が続く天候では、害虫の生育が早く作物の加害も甚大になります。圃場の虫の発生状況を常に把握しておきましょう。本圃でも早めの散布を心がけることで、予期せぬ食害を未然に防ぐことができます。殺虫剤は作用機構の異なる薬剤を組み合わせることで、効果的な防除が実現します。

ポイント その③ 害虫の生態を良く把握しておく。

夏以降は主に下記のチョウ目害虫による被害が目立ちます。加害部位、産卵・ふ化時期など、害虫の生態を理解しておくことで、より効率の良い防除ができるでしょう。これからの時期もオオタバコガ、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガなどが発生します。

【オオタバコガ】



実や茎に潜り込む習性があるため、虫体に直接薬液を浴びせることや、摂取させることが難しく、防除が困難。

【ヨトウムシ、ハスモンヨトウ】



葉裏に数十個まとめて産み付けられる卵塊から大量に孵化した幼虫が集団生活する。夜行性のため、若齢幼虫のうちしっかり防除しないと大変な被害をもたらす。

【ハイマダラノメイガ】



葉が重なったような場所、特に生長点付近を好むため、作物の生育に大きな被害を与える。とりわけ育苗期間中の被害は致命的となる。

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

デュポン株式会社 農業製品事業部

FAX 03-3549-1819 e-mail news@dupont-info.jp

〒104-0045東京都中央区築地3-7-10 JS築地ビル5F

※情報提供の目的でダイレクトメールを送信しております。発送、および内容に関するお問合せは、上記問合せ先(デュポン農業製品事業部センター)までお願いします。